ゆにふぁん版 オトナの社会科見学

第110回

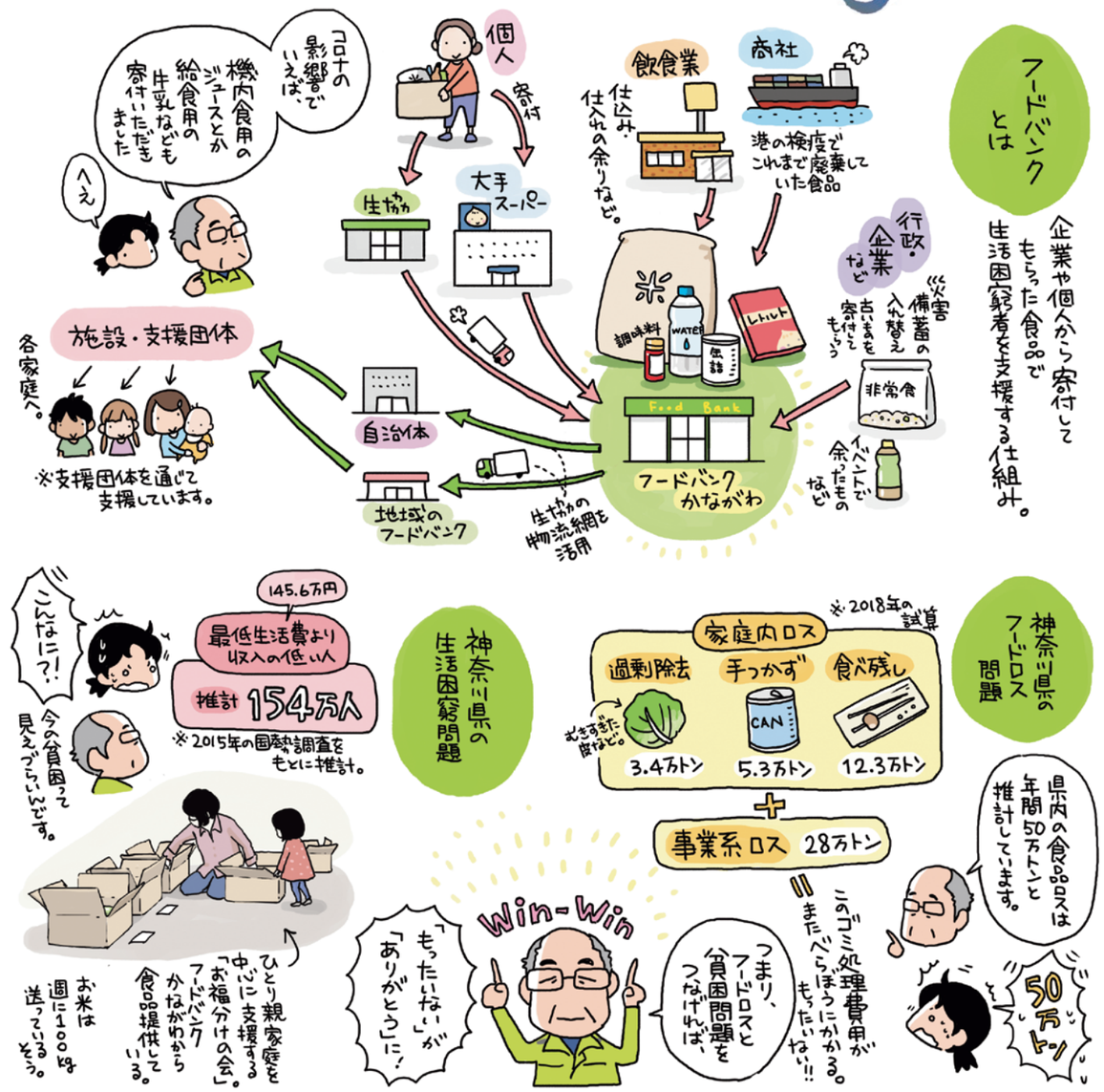
総と文＝岩井友子

フードバンクかながわ

フードバンクかながわは、2018年3月に神奈川県内の協同組合、労働福祉団体など非営利協同12団体により設立。同年10月にはフードバンクとしては全国初の公益社団法人の認可を受ける。相互扶助の社会づくりをめざし、食料の収集・配布を通じた生活困窮者等への支援事業、食品ロスの削減、フードバンクに係る調査研究・啓発・政策提言を目的とする事業など行う。連合神奈川も構成組織の一員として支援を行っている。

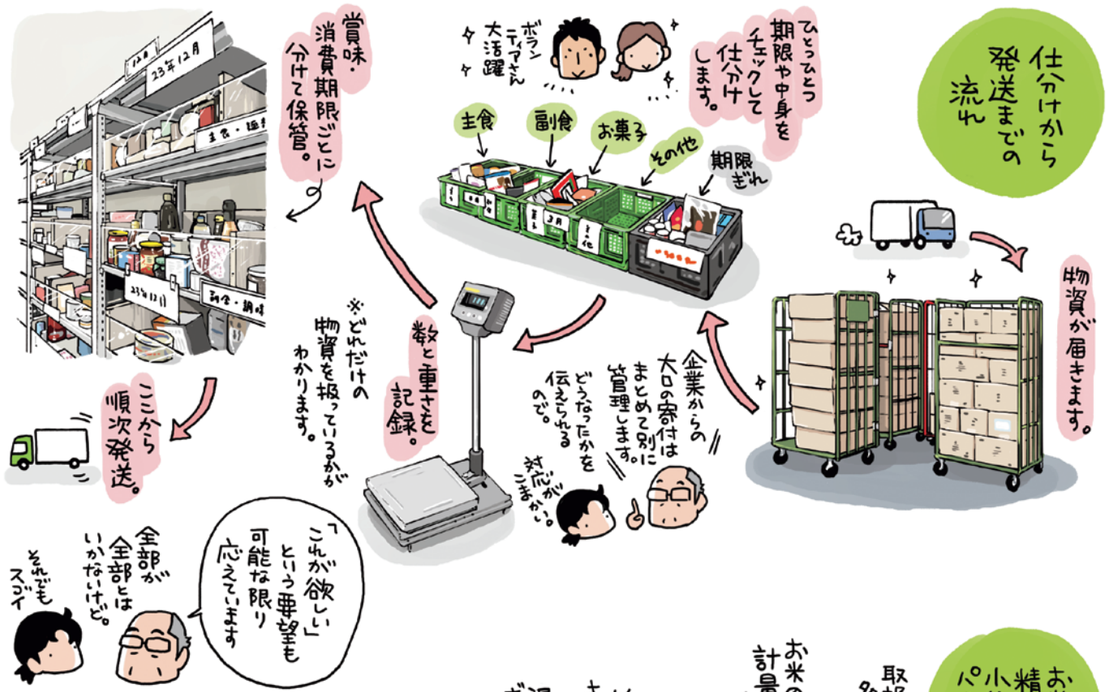
フードバンクとは

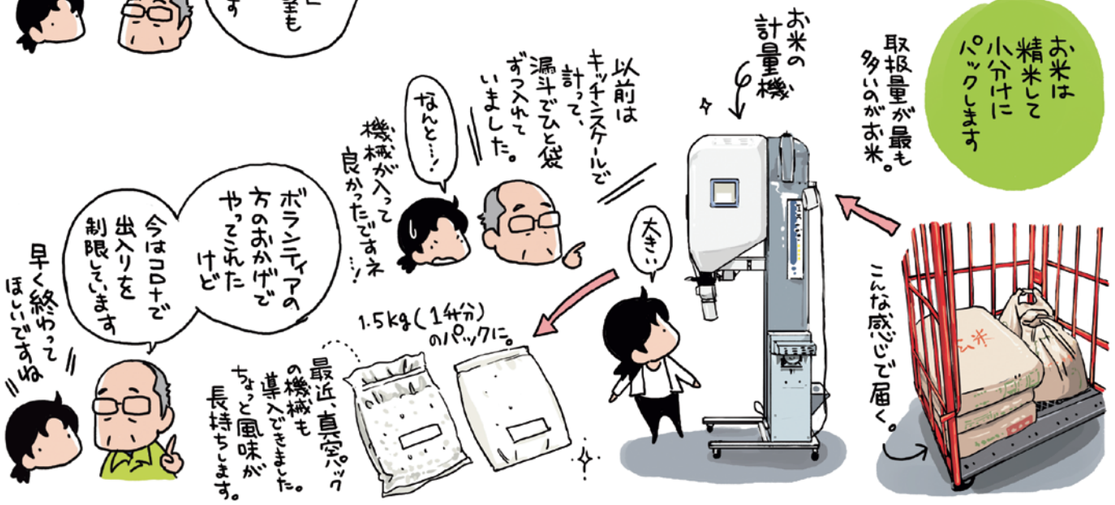
企業や個人からもらった食品で生活困窮者を支援する仕組み。



神奈川県のフードロス問題

神奈川県の生活困窮問題





“もったいない”を“ありがとう”へ

「現代の貧困ってわかりにくいんですよ」フードバンクかながわの藤田さんは、そう切り出します。「衣食住とは言いますが、今では1番が服装、2番目がスマホで食事は3番目。服装が悪いといじめに遭うから。そんな傾向があります」。一方、神奈川県でも年々問題になっているフードロス。そんなフードロスと貧困問題をつなげられないか。フードバンクかながわはその考えのもと、2018年、横浜市金沢区を拠点に活動を開始しました。

生協の既存の物流網を活用し、神奈川西部の相模原や小田原まで配送エリアを拡大。取り扱いの食品量も初年度の46トンからわずか4年で287トンに増えました。「倉庫がもつかな」と笑いつつ「それでもまだ神奈川全体のフードロスの0・5%にすぎない」と、協力企業や団体、自治体の開拓を進めています。

藤田さんは生協の元職員。退職後に声をかけられ、フードバンクかながわの立ち上げと運営に関わってきました。「もっと多くの人に、フードバンクやフードロスを知ってもらいたい」と、体験や研修も積極的に受け入れています。「体験をした子どもが、家で食べ残しをしなくなったと言うんです。この活動は打てば響く感じ。大人も、子どもも」。

この春からは、「実は廃棄がとても多い」といわれる冷凍食品を扱えるよう、冷凍倉庫やチルド配送の準備を進めている藤田さん。フードバンクシステムは「地域のテーマを分かち合うもの」だと言います。「〝もったいない〟を分かち合って〝ありがとう〟につながればと思いますね」。